

薄板軽量形鋼造建築物設計の手引き (第2版) 正誤

訂正箇所および追加箇所を下線で示しています。

48頁 下から22行目～24行目

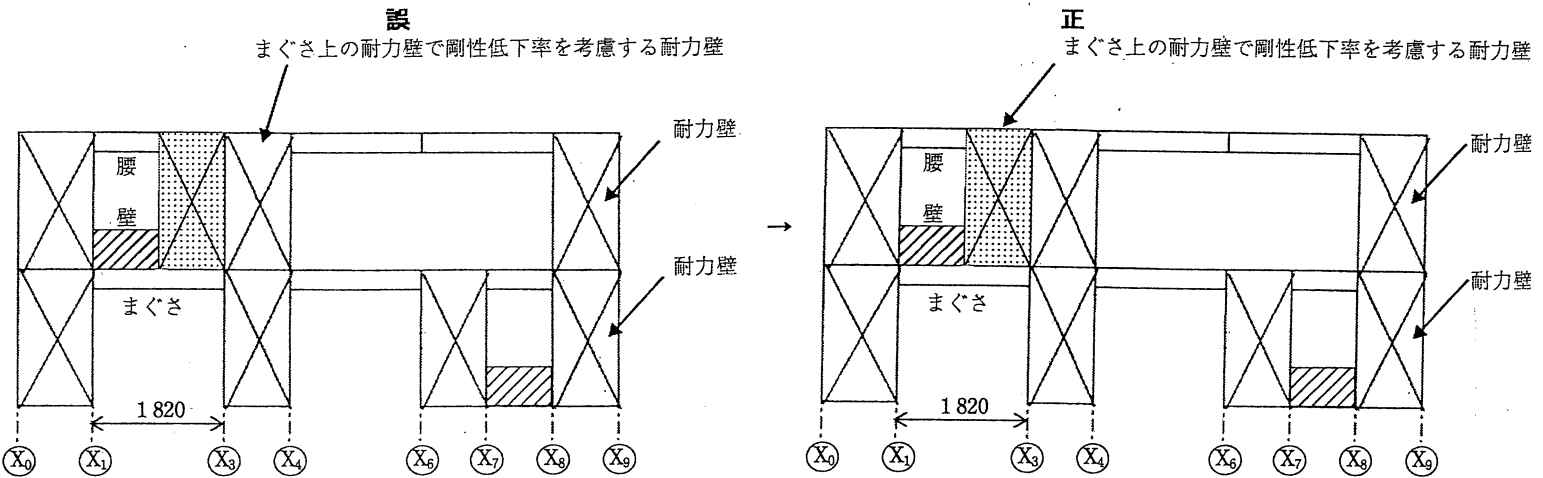
誤(下線部分)

構造特性係数は、建築物の振動減衰性および各階の靱性に応じて必要保有水平耐力を低減する係数であり、計算を行う階の架構の形式および架構の性状によってその数値が規定される。構造特性係数については、昭和55年建設省告示第1792号第1表2の数値以上の数値を用いるほか、当該建築物の振動に関する減衰性および当該階の靱性を適切に評価して算出することができるとされている。国土交通省住宅局建築指導加藤監修「2007年建築物の構造関係技術基準解説書」では、同表に基づく構造特性係数の判定基準(鉄骨造)を示しているが、薄板

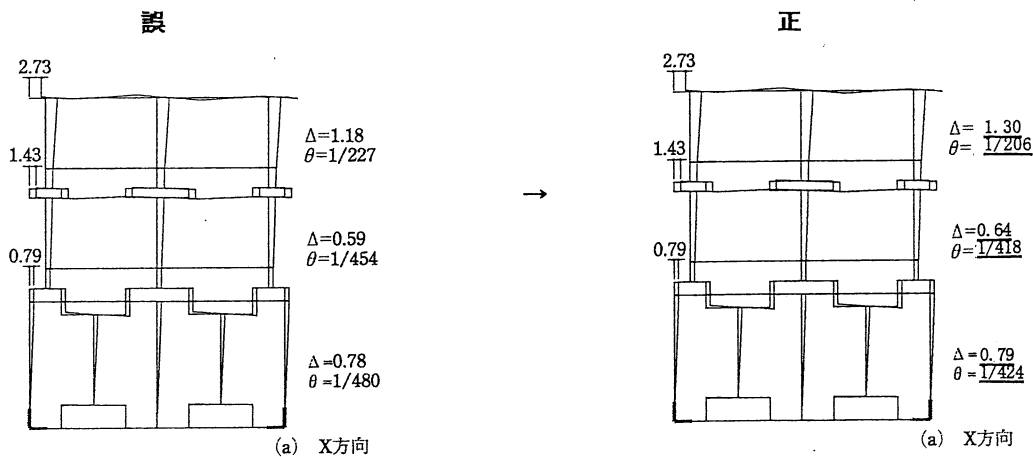
正(下線部分)

構造特性係数は、建築物の振動減衰性および各階の靱性に応じて必要保有水平耐力を低減する係数であり、計算を行う階の架構の形式および架構の性状によってその数値が規定される。構造特性係数については、昭和55年建設省告示第1792号第3に定める方法によるほか、第1ただし書において、当該建築物の振動に関する減衰性および当該階の靱性を適切に評価して算出することができるとされている。国土交通省住宅局建築指導加藤監修「2007年建築物の構造関係技術基準解説書」では、同告示第3に基づく構造特性係数の判定基準(鉄骨造)を示しているが、薄板

204頁 図 1.3.3.1



276頁 図 3.2.13



382～386頁 付録2 防火構造、準耐火構造認定仕様一覧表(日本鉄鋼連盟薄板軽量形鋼造委員会の委員会社が認定を受けたもの)

382頁 上から18行目下に追加

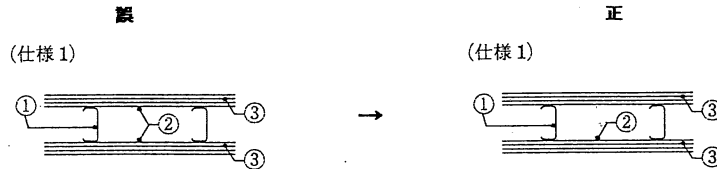
- 6) 接合条件の欄に示す数値は、タッピンねじを用いる場合の接合間隔の最大値を示す。
 7) ここでは、各認定書別添に記載される内容のうち概要を示すこととし、詳細は認定書別添に従うものとする。

383, 384頁 (2) 45分準耐火構造

部位：間仕切壁

認定番号：①QF045BP-9027, ②QF045BP-9028, ③QF045BP-9029, ④QF045BP-9030, ⑤QF045BP-9031, ⑥QF045BP-9032

構成図：



部位：床

認定番号：①QF045FL-9001, ②QF045FL-9002, ③QF045FL-9003, ④QF045FL-9004, ⑤QF045FL-9005, ⑥QF045FL-9006

防火被覆材：

誤	→	正
④天井被覆材：GBR12.5×2	→	④天井被覆材：GBF12.5×2
⑤床上被覆材：平成12年告示 1380号にする	→	⑤床上被覆材：平成12年告示 1358号による

部位：床

構成図：仕様1, 仕様2, 仕様3

認定番号：①QF045FL-9001, ②QF045FL-9002, ③QF045FL-9003, ④QF045FL-9004, ⑤QF045FL-9005, ⑥QF045FL-9006

防火被覆材：

誤	→	正
⑤床上被覆材：平成12年告示 1380号にする	→	⑤床上被覆材：平成12年告示 1358号による

385, 386頁 (3) 1時間準耐火構造

部位：間仕切壁

構成図：仕様1, 仕様2, 仕様3, 仕様4

認定番号：①QF060BP-9051, ②QF060BP-9052, ③QF060BP-9053, ④QF060BP-9054, ⑤QF060BP-9055, ⑥QF060BP-9056

防火被覆材：

誤	→	正
③被覆材(室内側)：GBR12.5×2	→	③被覆材(室内側)：GBF12.5×2

部位：床

構成図：仕様1, 仕様2, 仕様3

認定番号：①QF060FL-9019, ②QF060FL-9020, ③QF060FL-9021, ④QF060FL-9022, ⑤QF060FL-9023, ⑥QF060FL-9024

防火被覆材：

誤	→	正
④天井被覆材：GBR15(下張り) +GBR12.5(上張り)	→	④天井被覆材：GBF15(下張り) +GBF12.5(上張り)
⑤床上被覆材：平成12年告示 1380号にする	→	⑤床上被覆材：平成12年告示 1380号による

386頁 (4) 遮音構造(界壁)

認定番号：①SOI-9242, ②SOI-9243, ③SOI-9244, ④SOI-9245, ⑤SOI-9246, ⑥SOI-9247

遮音材：

誤	→	正
②遮音材：GBR15(下張り)+ GBR12.5(上張り)	→	②遮音材：GBF15(下張り)+ GBF12.5(上張り)